

フジバカマ

学名 Eupatoprium japonicum
科・属キク科・ヒヨドリバナ属
原産国 中国、朝鮮半島

秋の七草のひとつで、万葉集や源氏物語にも登場するなど古くから日本人に親しまれています。花がふじ色で花びらが袴(はかま)の形をしていることからその名が付いたと言われています。

奈良時代に中国から伝わり、日当たりの良い湿った草地などに自生する多年草(宿根草)です。今の日本には自生に適した環境が少なくなったため、原種は国の準絶滅危惧種に指定されています。市販されているフジバカマの多くはサワフジバカマと呼ばれる園芸品種で、原種よりも一回り小さく育てやすく改良されています。



アサギマダラ

学名 Parantica sita
分類 チョウ目タテハチョウ科

名前は、羽に見られる浅黄(あさぎ)色のきれいなまように由来しています。

大きさはアゲハチョウより少し小さく、人をあまり怖がらずに美しい羽をゆっくり動かして飛びます。

最大の特徴は「渡り」と言われる長距離の移動をすることで、40年ほど前からマーキング(羽に日付や場所を記すこと)による追跡調査が行われています。それによると「渡り」は季節の移り変わり(気温の変化)に合わせて年2回行われ、秋には本州を南下して九州や沖縄、遠くは南西諸島や台湾まで移動。初夏から夏にかけてはその逆のコースで北上している個体が発見されています。「渡り」をする蝶は世界的にもめずらしく、日本で見られるのはアサギマダラだけです。



アサギマダラの長く不思議な旅



アサギマダラは南下する「渡り」の途中で、フジバカマを好んで訪れます。姿が見られるのはオスで、オスは後はねの下部にメスには見られない黒い模様があります。フジバカマの成分を取り入れ、メスを引き付けるフェロモンに変えると言われています。

秋、この花だんのフジバカマにアサギマダラが見られたら、それは遠く南へ向かう長い旅の途中です。やさしく見守りましょう。

フジバカマの一部は、アサギマダラの保護活動に取り組まれている矢野義人様(宮崎市田野町在住)から譲り受けたもので、矢野様の紹介や解説には、本校区の高野良文様にご協力いただきました。

看板等の制作には学校創立150周年記念に中山成彬様(元文部科学大臣)からいただいた寄付の一部を使わせていただきました。

【出典:Wikipedia 写真提供:矢野義人氏 資料提供:高野良文氏】

令和6年3月 小林市立小林小学校

